

第64回近代五種全日本選手権大会



すずき ゆり
鈴木 結理 陸士長

令和6年11月1日(金)から11月3日(日)までの間、安城市スポーツセンター及び安城市陸上競技場(愛知県安城市)において、第64回近代五種全日本選手権大会が開催された。これまでの馬術種目がオブスタクル(障害物)種目に変更されてから国内で初の開催となり、また、パリ2024で近代五種競技における日本人初の銀メダルを獲得したことにより注目を集める大会となった。自衛隊体育学校からは大西渚生(おおにししょう)3等陸曹以下9名が参加した。今大会はナショナルチーム選考を兼ねた国内最大の大会である。

地元愛知県で躍動 嬉しい初優勝



地元開催となる愛知県出身の鈴木結理陸士長は、競技初日のフェンシングランキングラウンドは5位だったものの、続くオブスタクルでは2位に11秒の差をつける圧倒的な速さでゴールし2種目を終えて首位に立った。その後の水泳も3位で終わると首位のままレーザーランを迎えた。2位に13秒差をつけスタートした鈴木士長は安定した走り正確な射撃を繰り返し、首位を守ったまま4回目の射撃を迎えた。会場中が見守る中、最後の1発が命中し観客からの大きな歓声を背に走り出すと、更にリードを広げてゴールをした。近代五種を始めて3年目、見事に初優勝を飾った。試合後「今大会は所々ミスもあったが5種目トータルでまとめられ、優勝することができてとても嬉しい。オブスタクルは、チームの中で最初に取り掛かっていたので結果を残せて良かったが、男子選手や先輩方の技術を吸収して更にレベルアップしていきたい。」と語った。また、鈴木士長は年度において最も成長が著しい若手新人選手に贈られる「藤井賞」も受賞した。

接戦の末2位



大西渚生3等陸曹はフェンシングランキングラウンドで5位につけ、続くオブスタクルは8位、水泳6位と各種目で安定感のある試合運びで3種目を終え4位で最終種目のレーザーランを迎えた。首位の選手から27秒後にスタートした大西3曹は序盤からハイペースで先頭選手を追走するとともに、正確な射撃により2位まで順位を上げた(1回目の射撃終了時点)。その後も意地の追い上げで首位に追いつく力走を見せたが接戦の末2位でゴールし2年振りの王者奪還はならなかった。

また、男子団体で体育学校Aが2位、体育学校Bが3位の成績を取めた。

